



# 図書館だより



2022年  
読書週間号①

秋草学園高等学校 図書館

10月の始めにはまだ半袖でも過ごせるほどの気候でしたが、そこからグッと気温が下がって秋が深まってきました。湿度が低く、カラッとして気持ちのよい気候に誘われ、外へ出かけたくなる人も多いはず。2年生は来週から長崎・福岡方面への修学旅行がはじまります。思い出に残る楽しい時間を過ごしてきてください。図書館では秋の散策に役立つガイドブックなどを集めて展示を行っていますので、散策や旅を計画している人や旅する気分を感じて楽しみたい人はぜひ展示コーナーに立ち寄ってってください。

## 今年も読書週間の季節がやってきました！



2022・第76回 読書週間  
10/27～11/9

この一冊に、ありがとう

読書週間の初日 10/27 は文字・活字文化の日に制定されています。近年、若者の活字離れが指摘されていますが、みなさん自身はどう感じているのでしょうか。映像や音楽の方に興味が湧く、忙しくて本を読む時間がない、など色々あると思いますが、この2週間は時間を見つけて本を開いてみてほしいです。

みなさんが「本っておもしろいかも」と思ってもらえるよう今年の標語「この一冊に、ありがとう」をキーワードに本を紹介していきます。

## 家族に、ありがとう

913.6-セ 『そして、バトンは渡された』

瀬尾 まいこ || 著 幻冬舎

森宮優子の人生において家族の形態は17年間で7回も変わったが、いつでも彼女を愛してくれる家族がいた。愛の形は人それぞれ。そっと見守る愛もあれば、破天荒に見える愛もある。たくさんの愛に包まれ、成長していく少女の様子に始終心が温まるのを感じます。

914.6-キ 『家族だから愛したんじゃなくて、愛したのが家族だった』 岸田 奈美 || 著 小学館

中学生の頃に父を亡くし、病気の後遺症で車椅子生活を送る母と生まれつきダウン症で知的障害がある弟と3人家族の著者 岸田さん。家族への深い愛と感謝の気持ちがこもったエッセイ。トラブルに見舞われても明るく前向きに乗り越えていく姿に元気をもらえます。

## 友だちに、ありがとう

913.6-1 『本屋さんのダイアナ』

柚木 麻子 || 著 新潮社

自分の名前が大嫌いなダイアナ。名前が悪目立ちし、誰とも仲良くなれずにいた彼女に初めてできた彩子という友だち。ダイアナも彩子もお互いの持つ輝きに惹かれ合い、すぐに親友となる。しかし、些細なことで衝突し、すれ違ったまま成長した2人が次に言葉を交わしたのは…。

929.1-7 『アーモンド』

ソン・ウォンピョン || 著 矢島 暁子 || 訳 祥伝社

生まれつき感情を持たない僕は笑うことも泣くこともない人生を送っていた。そんな僕が出会ったのは、感情のまま動き、問題ばかり起こす少年ゴニ。僕らはどちらも怪物で、どちらも周りから浮いていた。そんな二人がお互いの存在に触れ、自分の中の何かを変えていく。

## 部活の仲間に、ありがとう

913.6-カ 『2. 43 清陰高校男子バレー部』

壁井 ユカコ || 著 集英社

強豪 福蜂工業高校男子バレー部と、万年一回戦負けの清陰高校男子バレー部。雰囲気も実力も異なる2つのチームの成長の記録。バレーは1人だけ強くても勝てない。何度も衝突しながら、絆を深め、仲間とボールを繋いで勝利を目指す。時に涙ありの熱い戦いが胸を打つ！

913.6-ナ 『くちびるに歌を』

中田 永一 || 著 小学館



長崎 五島列島にある中学校の合唱部に美人顧問目当ての男子が続々入部してきた！おかげでコンクールに向けた練習も今までのようにうまくいかない。部員同士でぶつかることも増えた。そんな中、それぞれが異なる葛藤を抱えながら、仲間と歌うことを通し、変わっていく。

## 司書の今月はこの本読みました

前号で秋ドラマの原作として紹介した『medium 霊媒探偵城塚翡翠』シリーズの3作目『invert<2>覗き窓の死角』(B914.6-ミ 相沢沙呼 講談社)を手に取りました。パッと見はミステリアスな美女、接すると天然要素多めの可愛い人、そんなギャップが魅力の霊媒探偵 城塚翡翠が挑む2つの事件。今回の犯人はかなり手強く、いつも鋭い観察眼で犯行の痕跡を探し出す彼女も苦戦。真相解明に至るまでの展開に惹き込まれました。登場人物それぞれの個性が光っていて人間ドラマとして楽しめるのもこのシリーズのおもしろさであり、次作も楽しみです。【今井】